

# 令和元年度

# 地方創生関係交付金 事業評価調書

## 目次

### ＜地方創生推進交付金＞

1. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
2. インクルーシブソサイエティ（共生で賑わう社会）推進事業・・・・・・・・ P 5
3. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業・・・ P 8

# 1. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業（地方創生推進交付金）

**交付対象事業名：今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業**

**事業額：1,700,000円 交付金充当額：850,000円（補助率1/2）**

## 事業内容

### 1. 山背古道観光推進事業【実績額：500,000円】（企画財政課）

山背古道とその沿線振興のため、ウォーキングイベント（山背古道は一ふウォーク・とことんウォーク）や山背古道観光アプリの提供等を行い、「祖父母・親・子」3世代の繋がりを築くきっかけとして、交流人口の拡大や地域消費の活性化を行う。

### 2. お茶の京都DMO分担金【実績額：1,200,000円】（産業環境課・地域創生推進室）

地方創生加速化交付金により設立した「お茶の京都DMO」に分担金を支払い、広域・統一ブランディングでの観光・集客サービスや農・商地域製品のマーケティングの実施等を深化させる取組を実施する。

（井手町関係の主な取組内容）

- ① 着地型旅行商品の企画
  - ・ 京田辺市、宇治田原町との共同で周遊観光モデルコース「家康伊賀越えの道」を設定。
- ② カーシェアで「お茶の京都」を巡ろうキャンペーンの実施
  - ・ カーシェアリングによる広域周遊観光を促進。
- ③ 情報発信・プロモーション事業
  - ・ 旅行事業者が参加する様々なイベントにおいて、井手町の観光情報を発信。

# 1. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業（地方創生推進交付金）

## KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
観光消費額 （億円／年）	8,138	H28.3	11,227.6	R2.3	12,000	R3.3	13,025.0	R2.3
観光入込客数 （万人／年間）	8,374	H28.3	9,624.8	R2.3	10,000	R3.3	8,790.8	R2.3
外国人宿泊者数 （万人／年間）	186	H28.3	371.95	R2.3	426	R3.3	389.7	R2.3

## 【参考・井手町における実績値の推移】

本事業における重要業績評価指標（KPI）	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
観光消費額 （億円／年）	1.02	1.12	1.11	1.15	1.08
観光入込客数 （万人／年間）	32.73	37.16	32.61	37.52	37.66

※外国人宿泊者数については町で集計していないため、不明。



家康伊賀越えの道  
伊賀越えガイドマップ

# 1. 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業（地方創生推進交付金）

## 事業の効果

- 令和元年度に開催した山背古道は～ふウォーク及びとことんウォーキングは、合計1,226人の方々が参加し、盛況となった。また、とことんウォークに併せて椿坂公園で行われたアナログ遊びイベント（ベーゴマやドングリ人形づくり等）では、子どもやその保護者など約220名が参加し、昔ながらの遊びを通じて幅広い世代の交流及び山背古道の周知が図られた。アナログ遊びイベントについては、7月30日と2月22日にも開催し、のべ75人が参加した。
- 京都府、西日本旅客鉄道（株）、タイムズ24（株）による連携協定のもと、JR玉水駅北側にカーシェアリングステーション（2台分）を設置。10月1日（火）より利用が可能となり、令和2年度末まで「カーシェアで「お茶の京都」を巡ろうキャンペーン」を実施している。
- 周遊観光モデルコース「家康伊賀越えの道」を設定し、地元ガイド団体と連携したモニターツアーを5月11日（土）に実施。井手町では44人が参加した。その後、11月16日（土）に3市町（井手町、京田辺市、宇治田原町）を巡り歩くウォーキングツアーを開催（一部バス使用）。25人が参加した。加えて、ルートや周辺の見どころスポット（高神社、多賀地区の観光農園等）を紹介するガイドマップも制作し、観光誘客の促進を図ることができた。

## 今後の展開

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域外から人を呼び込むことが困難になっており、これまで中心行的に行ってきた山背古道は～ふウォーク及びとことんウォーキング、アナログ遊びイベント等の開催を自粛することとなっている。一方、流行の収束に備え、山背古道をきっかけとした域内消費の喚起や沿線観光スポットへの一足伸ばしを誘発する取組として、沿線地域の飲食店マップ作成等を検討する。
- お茶の京都DMOとの連携により、地域資源の商品化に取り組み、令和5年度の一部開業を予定している「道の駅」（的休憩施設）における販売やふるさと納税の返礼品としての活用を目指す。また、そのための体制作りを進め、地域の「稼ぐ力」の向上を図る。また、伊賀越えツアーのような井手町独自の観光・周遊プランの作成もDMOと共同で促進し、観光入込客数や観光消費額の増加を目指す。

# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	4
どちらかといえば有効であった	3
どちらともいえない	2
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

## 委員の主なコメント

- シェアリングビジネスやマイクロツーリズムなど、withコロナ、ポストコロナあるいはアフターコロナ社会に対応した観光に方向変換していく必要があるのではないかと。逆にこの機会をチャンスととらえて思い切った再構築を検討してもよいのではないかと。（学識経験者・産業界）
- KPIについて、井手町の数値を見ていると、横ばいになっており、恐らくリピーターの方が中心であると考えられる。新規の観光客を呼び込むためには、地域資源に着目した「家康伊賀越えの道」などはストーリー性もあり、面白いコンテンツなので有効と思われる。ガイドの育成や作成したマップによる周知など、継続的に取り組んでほしい。（産業界・言論界・行政機関）
- 玉川さくら公園について、観光の観点でも活用していくことはできないかと。（産業界）
- カーシェアリングステーションや社寺、史跡、旧跡など、来られる方に対してははっきりとわかりやすい標示が必要ではないかと。（産業界）
- 井手町に住んでいる方がそれぞれネット上の口コミとして観光のPRしていただけるように、町内向けのファンづくりの取組に力を入れてはどうか。個々の口コミで興味を惹き、井手町を調べたらホームページ等で詳しい情報が手に入るようにすると、効果的な情報発信になる。（子育てサークル）
- 町内でも買い渋り、出かけ渋りがある。国の「給食応援サイト」のように町内の商店での買い物がネット上でできるようなシステムがあればよいのではないかと。（子育てサークル）
- 誰をターゲットにしているかはっきりしない事業ではなく、ターゲットを絞り、ターゲットとなっている人が飛びつきやすい事業を考えることが必要ではないかと。（子育てサークル）

## 2. インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業(地方創生推進交付金)

交付対象事業名：インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業

事業額：9,854,507円 交付金充当額：4,927,253円 (補助率1/2)

### 事業内容

#### 1. 特別支援学校設立に向けた障がい者等の社会参画支援事業【実績額：5,634,507円】

- ①障がい者就労支援のための訓練施設通所事業【実績額：320,396円】(高齢福祉課)
- ②外出困難な障がい者福祉タクシー事業【実績額：933,300円】(高齢福祉課)
- ③高齢者や障がい者の生きがい通所事業【実績額：3,809,000円】(高齢福祉課)
- ④高齢者(障がい者等)のための図書館出張貸出事業【実績額：368,505円】(社会教育課)
- ⑤高齢者から幼児への絵本読み聞かせ事業【実績額：203,306円】(社会教育課)

#### 2. 地域で活躍する高齢者による地域コミュニティ再生に取り組む団体への補助金【実績額：4,220,000円】

- ①町内の地域資源(史跡や旧跡、玉川)整備事業【実績額：70,000円】(社会教育課)
- ②青少年健全育成事業【実績額：350,000円】(社会教育課)
- ③美しいまちづくり推進事業【実績額：550,000円】(社会教育課)
- ④健全な体育・スポーツ活動の普及、振興による明るいまちづくり推進事業【実績額：3,150,000円】(社会教育課)
- ⑤高齢者(障がい者等)の食生活改善活動を実施している団体への補助【実績額：100,000円】(保健センター)

## 2. インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業(地方創生推進交付金)

### KPI (府全域)

本事業における 重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の 目標値		数年後の目標値		本事業終了時 の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
スポーツ、文化、芸術、レクリエーション活動への障がいのある人の述べ参画者数 (年間) 【府全域】	11,636	H28.3	16,000	R2.3	17,000	R3.3	11,015	R2.3
農福連携に係る地域交流イベントの参加者数	751	H28.3	1,500	R2.3	1,750	R3.3	1,548	R2.3
農業実施事業所における平均工賃月額の向上	17,180	H28.3	19,200	R2.3	19,800	R3.3	未発表	R2.3

※「農業実施事業所における平均工賃月額の向上」については令和元年度実績が令和2年11月頃に判明する予定。なお、平成30年度時点では目標値18,600円に対して実績値18,710円で、目標を達成できていた。



## 2. インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業(地方創生推進交付金)

### 事業の効果

- 障がい者や高齢者の就労や外出を支援する訓練施設通所事業や福祉タクシー事業については、昨年度並みの利用件数・利用者割合となっており、障がいのある方の社会参加促進に寄与している。また、高齢者や障がい者の地域での交流や外出機会の創出を図る「高齢者や障がい者の生きがい通所事業」の事業内容について、平成30年度から利用者のニーズに合わせ、実施場所である「いでの里」内で行えるような体力的な負担が少ない内容のものを充実させたこともあり、利用者数は概ね横ばいとなっており、高齢者や障がい者の社会参加の促進が図られた。
- 図書館出張貸出事業では、高齢者の方だけでなく、子連れで長距離の移動が難しい子育て世帯の方からも「様々な本を読む機会の確保につながっている」と評価を得ているほか、絵本の贈呈事業についても、対象者数に対する利用者数の割合が増加しており、幼児が本に親しむ機会の増加に寄与した。
- また、高齢者等を含む多様な地域団体の活動支援の結果、井手町スポーツ協会の実施する各種の事業等においては、例年以上の参加者があり、世代や性別、障がいの有無を超えた多様な交流の促進が図られ、住民参加のまちづくりの推進にも寄与している。

### 今後の展開

- 高齢者や障がいのある方は新型コロナウイルス感染症に罹患した際の重症化リスクが高いことを踏まえ、感染防止対策を徹底し、事業の在り方を十分に検討した上で、少しでも地域社会への参加を促進できるような事業の実施を検討していく。
- 共生社会の実現に向けた各種の事業に関しては、報道機関等を通じた積極的な情報発信を行うことで、本町の魅力の発信にもつなげていく。
- 今後、令和4年4月に京都府立井手地区新設特別支援学校が開校する予定となっており、インクルーシブソサイエティの実現に向けた取組がこれまで以上に求められてくる。当該特別支援学校は『地域と共に歩む学校』をコンセプトにされており、地域と連携してすべての人が安心して、地域で活躍していける社会を実現できるよう、京都産業大学との連携も視野に入れ、関係機関と連携して取り組んでいく。

# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	3
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	2
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

## 委員の主なコメント

- 今後、京都府立特別支援学校が町内に新設されれば、商工業を取り巻く環境にも大きな変化が出てくる。新たな商売も生まれてくると思うので、商工会との連携を密にして取り組んでいただきたい。（産業界）
- 京都府立特別支援学校の新設により、共生社会の実現に関するニーズが高まりつつあることを受け、この分野における今後の取組に期待していきたい。（言論界）
- 難病を持っている方等、新型コロナウイルス感染症に罹患した際の重症化リスクの高い方は、イベント等の事業でどれだけ感染防止の対策を講じていただいても、外出すること自体にリスクを感じてしまい、引きこもりがちになってしまう。そうした状況が続けば孤立感を深めることになるため、イベントに来てもらうことを求めるのではなく、健康な方の側からの積極的なアプローチがあるとよいと思う（子育てサークル）
- 外出困難な方の外出を促す福祉タクシー事業について、病院までの往復でいろいろな問題があり、なかなか利用したくても利用できない方が多くいる。木津川市で民間救急車（消防救急と異なり、緊急走行ができず、医師も同乗しないため、緊急時の対応には適さないが、看護師の同乗や設備の充実などから通常のタクシー等では移動が困難な方も安心して利用いただける。また、多くが事前予約制となっており、有料ではあるものの通院や転院だけでなく、レジャーなども含め、目的を問わず利用が可能。）サービスがあることを知った方から「井手町でもこのような民間救急車があれば、安心して病院へ行けるのに」という声を耳にした。井手町でも導入することができないか。福祉タクシー事業と直接の関わりはないが、事前予約が必要だとしても陣痛などでも利用でき、子育て世帯の安心にもつながると思う。（子育てサークル）

### 3. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業(地方創生推進交付金)

交付対象事業名：企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業

事業額：4,202,036円 交付金充当額：2,101,018円(補助率1/2)

#### 事業内容

#### 1. 空き家を活用した京都産業大学井手応援隊活動拠点事業【実績額:2,717,036円】(地域創生推進室)

##### ① 京都産業大学井手応援隊活動拠点「むすび家ide」運営事業【実績額:1,717,036円】

地域の「学びと交流の場」として、町内小学校の児童を対象とした学習イベント「寺子屋」の運営支援や、町家カフェの営業による地域の交流促進により、まちの賑わいづくりを図る。

##### ② 学生による地域課題解決支援事業【実績額:1,000,000円】

平成の名水玉川や山城竹などの地域資源を活用した「井手！みねーしょん」等の取組や、町内の様々な団体と連携したまちづくりの取組の検討を支援することにより、学生と連携した地域課題の解決を目指す。

#### 2. 地域課題解決に取り組むまちづくり団体の活動拠点運営及び団体活動支援事業【実績額:1,485,000円】

(地域創生推進室)

井手町まちづくり協議会に対する「井手町まちづくりセンター椿坂」の運営費用の支援を通じ、まちの魅力の情報発信及び交流人口の拡大を図る。



むすび家カフェの開設



キャップストーンプログラムの推進



まちづくり協議会と井手応援隊が連携した玉川清掃

### 3. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業（地方創生推進交付金）

#### KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		数年後の目標値		本事業終了時の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
本事業の取組によるサテライトオフィスの誘致件数（件／年間）	0	H29.3	10	R2.3	29	R4.3	4	R2.3
本事業の取組により田舎の地域で就職した者数（人／年間）	93	H29.3	126	R2.3	148	R4.3	113	R2.3
本事業の取組により大学等と連携した地域課題解決のためのフィールドワークに参加した学生数（人／年間）	5,181	H29.3	6,040	R2.3	6,580	R4.3	7,000	R2.3

（参考値）井手町における各KPIの状況（R1年度）

- ・ 本事業の取組によるサテライトオフィスの誘致件数（件／年間）… 0
- ・ 本事業の取組により田舎の地域で就職した者数（人／年間）… 0（H28～R1：累計1人）
- ・ 本事業の取組により大学等と連携した地域課題解決のためのフィールドワークに参加した学生数（人／年間）… 39

### 3. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業（地方創生推進交付金）

#### 事業の効果

- 「むすび家ide」については、京都産業大学井手応援隊等により、寺子屋（6月～10月）等が開催され、延べ102名の利用があった。また、平成30年度末よりオープンした町家カフェ「むすび家カフェ」についても、井手応援隊の協力の下で毎週末を中心とした営業を行い、令和2年3月末時点で延べ3,773人の利用があり、小学生に限られない幅広い町民の交流促進及び町の食の魅力発信に寄与している。
- 「井手！みねーしょん」等の秋のイベントについては、昨年度に引き続き、むすび家ideとまちづくりセンター椿坂を中心として開催したほか、開催日数を延長する等、規模を拡大した上で町の魅力を発信するイベントとすることができた。また、平成30年度より開始した、町内の具体的課題についての検討やその解決方法の提案を学生に依頼する「キャップストーンプログラム」により、泉ヶ丘中学校との連携により本町の歴史や自然などの魅力を子ども達に学んでいただく「まちづくり教育」の充実が実現する等、町内団体によるまちおこし活動の進展に寄与した。
- 井手町まちづくりセンター椿坂では、従来に引き続き、さくらまつりでのたけのこご飯の提供や、井手応援隊とも連携した秋の地域活性化イベント（「時代絵巻行列」等）等を開催し、交流人口の拡大に寄与した。

#### 今後の展開

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、京都産業大学では現在も大学構内への立ち入り制限やオンライン授業、フィールドワークの禁止などの対応が続いている。それに伴い、町内における学生の活動拠点であるむすび家ideについても閉鎖が続いている。むすび家ideの再開については、京都産業大学の活動拠点であることから、大学の意向も踏まえ検討する。
- 「井手！みねーしょん」等の秋のイベント及びキャップストーンプログラムについては、学生が町に訪れることが容易ではないことを踏まえ、ICTの活用などにより、何らかの形で井手町の魅力の発信や活性化に寄与できるような方法を検討していく。
- まちづくりセンター椿坂では、平成30年度から周辺の耕作放棄地を活用した事業を新たに開始し、当該農地で生産される作物を活用した自然体験事業など交流人口の増加を重点的に取り組んできたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、当該農地で生産される農作物の生産振興及びそれらを活用した特産品の開発を進め、井手町の食の魅力づくりを行う。

# 井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	6
どちらかといえば有効であった	1
どちらともいえない	2
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

## 委員の主なコメント

- 物事の考え方を改めて、これからも先、まちづくりを考えていく場が必要だと思う。（産業界）
- 井手応援隊のメンバーを交えた会議があればいいと思う。（産業界）
- 京都産業大学との連携により、フィールドワークに参加した学生数が、目標値を大幅に上回るなど、積極的に取り組んでいただいた。（産業界）
- KPIでは大学連携による参加学生数が目標値を超えて伸びている。それらの活動に新型コロナウイルス感染拡大が影響している現状を大変残念に思う。（言論界）
- KPIの状況を見ると、京都府全体でサテライトオフィスの誘致は低調となっている。一方で、現在、コロナ禍の影響からサテライトオフィス等の新しい働き方が注目されている。これをチャンスと捉え、井手町の立地の優位性を活かすとともに、積極的な通信環境整備や情報発信などの誘致に向けた取組を行ってはどうか。（産業界・行政機関・学識経験者）
- 現状では、井手町で働くことのメリットがあまり感じられない。助成金制度やHPの開設等のサポート、井手町を拠点にしてもらえるような仕組みが必要ではないか。（子育てサークル）
- 今後の「井手！みねーしょん」等を実施する際、快く参画してもらえるようにイメージを払拭するにはどうしたらいいかを考える必要がある。しっかりとした説明や、気持ちに通じ合えるような工夫がいるのではないか。（子育てサークル）